

# 解剖学総論

責任者・コーディネーター		人体発生学分野 木村 英二 教授			
担当講座・学科（分野）		人体発生学分野、整形外科科学講座			
担当教員		木村 英二 教授、佐藤 光太郎 講師、丸山 盛貴 講師、中野 真人 特任講師、金澤 潤 助教、三上 貴浩 助教			
対象学年	1	区分・時間数	講義	9コマ	13.5時間
期間	後期		演習	0コマ	0.0時間
			実習	5コマ	7.5時間

## ・学習方針（講義概要等）

人体構造の理解を目的とする解剖学は、臨床医学への架け橋となる医学教育の根幹をなす科目です。本科目では、人体の基本的構造を理解するため、解剖学の総論的な内容を中心に講義と実習を行います。人体の基本構造は、体壁（骨格、筋、神経、血管）と内臓の要素から成りますが、講義では、特に体壁と体壁から延び出した四肢、頭部について、骨学、筋学、末梢神経学、血管学の総論を講義します。加えて、ヒトの骨格標本を用いた実習を通じて、体幹の骨、上肢帯・上肢の骨、骨盤・下肢の骨、頭蓋骨について、各骨の相互位置関係、骨格筋や血管・神経との関係から形付けられたその形態的特徴を確認し、それぞれの形状と連動性の理解を目指します。以上の内容を十分理解し説明できるように、事前に関連領域の内容を自修し、授業と実習を通じて知識を整理してください。

## ・教育成果（アウトカム）

人体解剖学を学ぶうえで基礎となる人体の基本的構造を理解するために、骨格を自らの目で確認し、骨格と関連する主要な筋、末梢神経、血管の構成とそれらの相互関係について、理解し、説明できるようになる。そのために事前に配布する資料を参考に関連する領域について、教科書等を読み予習を十分行うこと。特に骨学の実習では、記載された骨と骨の各部位、関節（靭帯を含む）の構成要素の解剖学用語をラテン語も含め、正解に読み書きできるようになること。その上で、実習要項の課題に沿って、骨の標本を観察し、重要な部分をスケッチする。骨学の知識を体系化する過程を経験し、身体運動との関連性を、解剖学用語を用いて説明できるようになり、人体解剖学の学習の基本を会得する。骨の特徴を詳細に観察し、スケッチすることで、骨の形態形成を科学的に考察できる能力を身につけ、また、人骨を用いた実習を経験することで、人骨を取り扱うことの倫理的な意味を自問し、未知なる人体への尊厳と幅広い知識の習得のため日々研鑽を続けるプロフェッショナルとしての態度を身につける。  
(ディプロマ・ポリシー： 1,2,3,4,6 )

## ・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	人体解剖学を学ぶうえで基礎となる人体の基本的構造を理解するために、骨格を自らの目で確認し、骨格と関連する主要な筋、末梢神経、血管の構成とそれらの相互関係について、理解し、説明できる。
2	医師として必要な人体の解剖学的知識を習得するために、授業と自修により、人体の全身の骨と個々の骨の各部位、関節（靭帯を含む）の構成要素を示す解剖学用語をラテン語も含めて、記憶し、正解に読み書きできる。さらに、実習を通じて、解剖学用語で示された部位を、体表と人骨の標本をで確認し、その特徴を述べることができる。これにより、骨学の知識を体系化する過程を経験し、身体運動との関連性を解剖学用語を用いて説明できる。
3	学生二人共同で行う実習を通じて、学びの協力関係を構築し、お互いが有益となる共同作業を実現する。
4	授業を通じて、未知なる人体への尊厳と幅広い知識や優れた技術の習得のため日々研鑽を続けるプロフェッショナルとしての態度を身につける。
5	人体の骨標本の作製法を学び、人体組織を扱う教育・研究を実施する際の、医療倫理、個人情報保護、感染対策の必要性を説明できるようになる。
6	医師として必要な「的確な医療情報を収集し、それをもとに適確な診断を下し、記録する」という基本的な課程を学修するため、実習では、自らの目で、骨標本を観察し、スケッチすることで、特定の骨や骨格の特徴ある部位を同定する技能を習得し、科学的思考方法を身につける。

・講義場所

講義：東1-A講義室      実習：西4-A実習室・西4-B実習室

・講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号
講義	10/28(月)	3	人体発生学分野	木村 英二 教授	解剖学総論 人体の基本構造について；骨・筋・神経・脈管の相互関係	1,4,5
講義	10/28(月)	4	人体発生学分野	木村 英二 教授	末梢神経1 末梢神経総論（脊髄神経の前枝と後枝／筋枝と皮枝）	1,4
講義	11/11(月)	3	人体発生学分野	木村 英二 教授	末梢神経2 末梢神経各論その1（上肢・下肢を支配する末梢神経系と筋の関係）	1,4
講義	11/11(月)	4	人体発生学分野	木村 英二 教授	末梢神経3 末梢神経各論その2（脳神経の線維構成と走行）	1,4
講義	11/18(月)	3	人体発生学分野	金澤 潤 助教	骨学各論1 体幹の骨	1,4
実習	11/18(月)	4	人体発生学分野 人体発生学分野 人体発生学分野 人体発生学分野	木村 英二 教授 中野 真人 特任講師 三上 貴浩 助教 金澤 潤 助教	骨学実習1 体幹の骨の観察	1,2,3,4,5,6
講義	11/25(月)	3	人体発生学分野	金澤 潤 助教	骨学各論2 上肢帯と上肢の骨	1,4
実習	11/25(月)	4	整形外科学講座 人体発生学分野 人体発生学分野 人体発生学分野 人体発生学分野	佐藤 光太郎 講師 木村 英二 教授 中野 真人 特任講師 三上 貴浩 助教 金澤 潤 助教	骨学実習2 上肢帯と上肢の骨の観察	1,2,3,4,5,6
講義	12/2(月)	3	整形外科学講座 人体発生学分野	丸山 盛貴 講師 金澤 潤 助教	骨学各論3 骨盤と下肢の骨	1,4
実習	12/2(月)	4	人体発生学分野 人体発生学分野 人体発生学分野 人体発生学分野	木村 英二 教授 中野 真人 特任講師 三上 貴浩 助教 金澤 潤 助教	骨学実習3 骨盤と下肢の骨の観察	1,2,3,4,5,6
講義	12/9(月)	3	人体発生学分野	木村 英二 教授	骨学各論4 脳頭蓋	1,4
実習	12/9(月)	4	人体発生学分野 人体発生学分野 人体発生学分野 人体発生学分野	木村 英二 教授 中野 真人 特任講師 三上 貴浩 助教 金澤 潤 助教	骨学実習4 頭蓋骨（頭蓋底）の観察	1,2,3,4,5,6
講義	12/12(木)	3	人体発生学分野	木村 英二 教授	骨学各論5 顔面頭蓋 歯	1,4
実習	12/12(木)	4	人体発生学分野 人体発生学分野 人体発生学分野 人体発生学分野	木村 英二 教授 中野 真人 特任講師 三上 貴浩 助教 金澤 潤 助教	骨学実習5 頭蓋骨（顔面頭蓋）の観察	1,2,3,4,5,6

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	骨学実習の手びき 第4版	寺田春水、藤田恒夫 著	南山堂	1992
参考書	人体解剖学：Human Anatomy 改訂42版	藤田恒太郎 著	南江堂	2003
参考書	グレイ解剖学 原著第4版	Richard L.Drake、A.Wayne Vogl、Adam W.M.Mitchell 著、秋田恵一 訳	エルゼビア ジャパン株式 会社	2019
参考書	解剖学 分担 改訂第11版 1 総説・骨学・靱帯学・筋学	小川 鼎三、森 富 著、森 於菟 原著	金原出版社	1982
参考書	解剖学講義 第3版	伊藤隆 著、高野廣子 編集	南山堂	2003
参考書	ネッター解剖学アトラス 原著7版	F.H.Netter著、相磯貞和/今西宣晶監訳	南江堂	2022
参考書	ソボッタ解剖学アトラス 原書24版 第1巻 全身解剖・筋骨格系	Friedrich Paulsen、Jens Waschke 著・監修、山田重人 訳	丸善出版	2022
参考書	ソボッタ解剖学アトラス 原書24版 第3巻 頭頸部・神経系	Friedrich Paulsen、Jens Waschke 著・監修、山田重人 訳	丸善出版	2022
参考書	プロメテウス解剖学アトラス（頭頸部／神経解剖 3版）	Michael Schunke他著、坂井建雄、松村譲児 監訳	医学書院	2019

・成績評価方法

<p>【総括評価】 進級試験（80%）、実習記録（20%）で評価し、100点満点に換算して60点以上を合格とする。尚、人の骨格標本を取り扱う上で不適切な言動を認めた場合や実習室における規則を守らない場合は、実習記録の割合を超えた減点を行う。</p> <p>【形成的評価】 骨学の実習前に小テストを実施して講義内容の理解度を確認し、その結果を学生にフィードバックする。</p>
---

・特記事項・その他

<p>実習に当たっての注意事項：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習中の一切の飲食（ガム・飴を含む）を禁止する。</li> <li>2. 実習室内では脱帽し、サングラスなどの使用も禁止する。</li> <li>3. 実習標本をデジカメなどで撮影することを禁止する。</li> <li>4. 実習中に、実習と関係ない内容を大声で話すこと、意味なく実習室内を徘徊することを禁止する。</li> </ol> <p>尚、上記の規則に従わない場合は、実習室から退室させ以降の実習への参加も認めない。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. 人骨の取り扱いには、ご本人と家族の気持ちを察し、手厚く行うこと。かなりもろい部分もあり、最大限の注意を払い、鉛筆で書き込みなど、決して自分本位な態度をとってはならない。</li> <li>6. シラバスに記載されている内容及び各回に配布・提示される教科書を用いて事前学修（予習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。</li> <li>7. 骨学実習の前には、実習に必要な内容について小テストを行い、学修（復習）の進捗をフィードバックする。</li> <li>8. 授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。</li> </ol>
--

・教育資源

<p>骨標本、教科書・参考書、講義室、実習室、PC画面投影装置、ノートパソコン、無地のノート1冊（骨標本の記録に使用する。各自で実習前に準備すること）</p>
---

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	Apple MacBookPro 16インチ 一式	1	講義
講義	デスクトップパソコン HP Pro SFF 400 G9	1	講義
講義	ASUS グラフィックボード	1	講義
講義	Intel Core i9 13900K BOX	1	講義